

令和6年度 自己点検・自己評価 評価と課題

評価尺度：当てはまる 3点 やや当てはまる 2点 当てはまらない 1点

評価項目

大項目	No	小項目	評定平均	評価項目 平均	評価と課題
I. 教育理念 目的・目標	1	教育理念に沿い、教育目的・目標が明文化され学校の特色を示している。	2.6	2.3	・理念との一貫性を考え、教育目的・目標を検討したが、卒業時のアンケートで2割の学生が十分に意識できなかったと答えていた。入学時ガイダンスで意識する機会を設けているが、学生に十分浸透しているのかが不明である。 ・卒業時の到達状況やディプロマポリシー（期待する卒業生像）の評価など客観的な指標が不足している。 ・教育理念が明確であれば、学生がなんのために学んでいるのかどんな看護師になりたいのかを考え学ぶ姿勢に反映することができる。授業・実習が理念と一致しているか見直す機会を設ける。
	2	学生・教職員に「教育理念」「教育目的・目標」「期待する卒業生像」が浸透している。	2.0		
	3	教育目標は、具体的で実現可能な目標になっており、学生にとって学習の指針になっている。	2.2		
	4	卒業時点において持つべき看護師の資質と人材育成内容（期待する卒業生像）が明示されている。	2.8		
	5	卒業時に「期待する卒業生像」に近づいているかを分析評価し、教育活動にフィードバックしている。	2.0		
II. 教育課程	6	教育課程は、教育理念・教育目的・目標と一貫性のある内容になっている。	2.8	2.7	・各教員で学生の授業評価を含め、講義計画やシラバスの見直しを行っている。 ・単位履修の方法が教員と学生で共有され、学生の単位習得の支援になるように改善していく。
	7	授業科目は、系統的・段階的に構成された科目が配置されている。	2.7		
	8	授業概要（シラバス）は、学生が授業内容を理解しやすいように作成し年に一度、評価と修正を行っている。	2.8		
	9	単位履修の方法とその制約が教員・学生の双方がわかるように明示し、その方法が学生の単位習得の支援になっている。	2.5		
III. 教育活動	10	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整している。	2.4	2.6	・外部講師や実習期間の制約があることで適切な時間割調整が難しい。できるだけ学生に効果的な授業の配置になるように努力している。 ・学生のレベルに差があり個々に合わせて十分な指導ができるとは言い難いが、学生のレディネスに合わせ教員が工夫し対応している。 ・授業終了後に学生にアンケートを行い、集計した結果を各担当教員にフィードバックし次の授業につなげている。 ・定期的に指導者会議や事前説明を行い協力を得るよう努力している。実習において教員は、学校内で講義や役割もあるため実習指導者と連携しながら実習が円滑に進むよう体制を整える必要がある。 ・患者の権利や個人情報が守られるように、同意書を用いて同意を得ており、学生にも実習ガイダンスやオリエンテーションの際に重要性を促している。
	11	授業計画に基づいた授業を実施している。	2.8		
	12	講義、演習、実習など、授業の形態に合わせ指導内容や指導方法を選択している。	2.7		
	13	授業内容や指導方法が学生のレベルに合うよう工夫し改善されている。	2.3		
	14	臨地実習施設は、養成所の教育理念・教育目的・目標を理解し、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	2.2		
	15	臨地実習指導における学生の学びを保障するために臨地実習指導者と教員がそれぞれ役割を明確にし、協働体制を整えている。	2.3		
	16	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、学生に計画的に指導している。	2.5		
	17	臨地実習における学生が関係する事故を把握・分析し、安全教育・安全対策を計画的に行っている。	2.8		
	18	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表し公平性・妥当性が保たれている。	2.7		
	19	学生による授業評価を実施し授業の改善に努めている。	2.7		
	20	単位履修の方法とその制約が教師・学生の双方からわかるように明示している。	2.7		
	21	単位認定の基準および方法が看護専門職に必要な学修を認めるものとして妥当である。	2.8		
	22	計画された時期に会議を行い、単位および卒業の認定を行っている。	2.8		
IV. 入学者 獲得	23	入学者の獲得に向け、自校の特色をアピールした広報活動を行っている。	2.6	2.3	・計画的に学校説明会を行っている。県内の高校以外にも企業業種ガイダンス他で隣県の会場にも足を運んでいるが、少子化の影響で定員を確保できない状況にある。入学時のアンケート調査からオープンキャンパスや学校説明会で当学院を知った学生も半数以上いることから、今後も継続した活動を行っていく。2025年度からSNS発信も含めた広報活動に力を入れていく予定である。 ・入学者の多様性を踏まえ、選抜方法を工夫していく。
	24	学生募集の広報資料はわかりやすく、広報活動の時期・方法が適切である。	2.7		
	25	学校説明会および学校見学会（オープンキャンパス）の時期・内容は適切である。	2.6		
	26	入学選抜の時期・方法は適切である。	2.5		
	27	入学者の状況・推移について、入学者選抜の方法と妥当性及び教育効果の視点から分析している。	2.1		
	28	入学者の定員は充足されている。	1.2		

令和6年度 自己点検・自己評価 評価と課題

V. 学生支援	29	中途退学者を少なくする工夫・努力をしている。	1.9	2.5	<ul style="list-style-type: none"> 看護学校の中途退学者の割合は15%と言われている。中途退学者を出さないよう担任と情報を共有し、問題の早期解決に向け早めの介入を心がけている。年々学生のストレス耐性が低下し対応が困難になってきている。 国家試験対策は年間計画を立て模試や補講、放課後学習（マンツーマン学習含む）を行っている。全国的に看護学生の学力・学習意欲の低下、自律性の欠如が示唆されており。学生への指導や授業準備などにとられる時間が増えてきている。 健康管理体制は整っており、進路については学生の進路希望を早期に把握、相談・支援を行っている。
	30	学生の学力や学習状況を把握し、必要時補習授業等を行っている。	2.5		
	31	学生生活・学習・就職に関するこについて、学生の相談・支援を行っている。	2.8		
	32	個々の学生に適した指導方法がとられ、教職員が一体となって学生を支援している。	2.4		
	33	学生の心身面での健康管理体制が整っている（健康診断、予防接種、感染対策、面談、カウンセリング）	2.8		
	34	自治会活動や課外活動・ボランティアへの支援体制が整っている。	2.7		
VI. 卒業・就職・進学	35	学生が望む進路の実現に向かい目標を定め、その目標が達成できるよう支援している。	2.8	2.4	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時のアンケート調査を実施しておらずディプロマポリシー（期待する卒業生像）の到達度が不明となっている。また、卒業後の状況把握と教育評価の分析が行われておらず課題である。
	36	卒業時の到達状況をデータとしてまとめ、評価している。	2.5		
	37	卒業後の活動状況を把握し、教育課程に反映している。	1.8		
VII. 人材育成	38	優秀な人材を育成するための研修計画がある	1.8	2.2	<ul style="list-style-type: none"> 新人教員は1年間の専任教員養成コース研修を受け、教・職員のサポートのもと無事終了した。 学会参加への学校の計画・支援を希望する。 年間を通した研修計画がなく原則、個人に任せられている。自己研鑽するよう努力はしているが、研修の受講状況は教員によって差がある。 各年度で業務内容が振り分けられ、全体で協力・連携・相談しながら達成できるように取り組んでいる。 研修に参加した教員の学びを共有する仕組みがないため、発表する場を設ける必要がある。 研究活動について、業務の複雑化から勤務時間外に行うこととなり時間の確保が厳しい。教育を活性化するためにも取り組みが必要と考える。
	39	専任教員は看護教員養成課程の資格を有し、教員は看護学の専門領域ごとに配置されている。	2.8		
	40	教員組織は運営に必要な人数と職種が配置されている。	2.5		
	41	教員組織は指示命令系統に沿い、その役割を果たしている。	2.5		
	42	教員間での協力・連携を保ち業務を遂行している。	2.4		
	43	教員は必要な研修に参加し、自己研鑽ができている。	1.9		
	44	研修で学んだことや学会等に参加した成果を共有する仕組みがある。	1.9		
	45	教員の研究活動が保障され、教員は看護研究や授業研究などの研究活動を行っている。	1.4		
VIII. 教育環境	46	学生の成績に関するデータの整備（成績台帳）と管理が整っている。	2.6	2.6	<ul style="list-style-type: none"> PC環境の整備や電子テキストの導入など、ICT活用を模索している。 教材であるモデルや機材の管理・メンテナンスなど、長期的な計画のもとに行っていく必要がある。（定期点検や新規の購入） 図書は必要な冊数が整えられ、専任司書のもと環境が整えられている。
	47	学生が授業や実習で使用するための教材・器材が整っている。	2.4		
	48	図書室は必要な冊数が揃い、整備されている。	2.7		
	49	学生のために休息・親睦及び交流等を行うためのスペースが設けられている。	2.6		
	50	校舎は耐震性・安全性に優れた構造になっており、適切に管理されている。	2.4		
	51	学生・職員の個人情報が適切に管理されている。	2.6		
IX. 運営・管理	52	職員の業務の効率化を考えたシステムが導入されている。	1.7	2.4	<ul style="list-style-type: none"> 成績管理や図書の管理などシステムを導入することにより、効率化が図られ業務改善の一助になると考える。財政の問題もあるため長期的な展望で計画に入れることができることを望ましい。 令和6年度から自己点検シート（チェックシート）を用いた評価方法を再開した。評価の内容を教職員で共有し、意識の統一を図りたい。 1年次の「地域・在宅看護論実習」を通して地域に关心を持てるよう働きかけている。 地域で要請のあったボランティアについてはできる限り協力している。しかし、地域のニーズの把握までには至っていない。
	53	災害など非常時の危機管理体制が整っている。（施設・設備点検、防災、避難訓練など）	2.4		
	54	年間事業計画・予算計画を策定し、適正な予算の執行・管理を行っている。	2.4		
	55	運営組織や意思決定システムは明確で効率的になっている。	2.1		
	56	職員間の連携が適切かつスムーズである。	2.4		
	57	会議や各種委員会の決定事項は職員に周知され、議事録は適正に作成・管理されている。	2.6		
	58	学校評価（自己点検・学校関係者評価）を行い、学校運営と教育課程にフィードバックし、改善につなげている。	2.5		
	59	学校評価を実施し、結果を公開している。	2.4		
	60	地域のニーズを把握し、教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。	2.4		
	61	地域と連携し、養成所の学習や教育活動に取り入れている。（ボランティア他）	2.8		

＜総括＞

大項目（9）の評定の平均は2.2であった。そのうち評定の高い項目（2.5以上）は「Ⅱ」・「Ⅲ」・「Ⅴ」・「Ⅶ」で講義や学生への指導・支援や教育環境についての取り組みは行われていたと評価できる。評定の低い項目は、小項目のIV-28（入学者の定員の充足）VI-37（卒業後の活動状況）VI-38（人材育成の研修計画）VII-43・44（自己研鑽・研修の成果発表）IX-52（システム導入）であった。今回、結果を振り返ることで介入の不足している部分と課題を明確にすることができた。入学者の獲得（大項目IV）については、学校全体で取り組むべき喫緊の課題といえる。